

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172300168		
法人名	株式会社 おあしす		
事業所名	グループホーム おあしす養老		
所在地	岐阜県養老郡養老町京ヶ脇1609-10		
自己評価作成日	平成24年7月8日	評価結果市町村受理日	平成24年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172300168-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成24年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スリッパのまま自由に庭へ出られるようになっており、自由で明るい雰囲気になっている。入居者一人一人の身体的精神的状態を把握し、それに対応した最善の介護サービスを提供しています。食事家庭と同じような内容で、天気の良い日は外でバーベキューなどもします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者一人ひとりの生活歴を大切に、心身の状態を把握し個別に対応するケアに取り組んでいる。話しかけられた時は手を止めて話を聞き、利用者が穏やかに過ごせるよう心がけ、食事形態・入浴・外出・髪染め等、利用者の体調や希望に合わせて支援している。管理者は、「自宅のような自然体の日々を過ごしてもらう」ことを目指し、共有空間等の絵画や植物、照明器具や家具調度品も家庭的な雰囲気に配慮し、利用者が思い思いに過ごせるようにしている。職員には、毎年海外旅行や長期休暇があり、ストレスをためないようコミュニケーションの良い、明るい職場環境づくりに努めている。また、夜間や状態の急変時には、管理者自ら病院に付き添い利用者・家族の安心に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の身体的精神的状況を把握し、常にその人にあった最善の介護をするよう全員で心がけている	管理者と職員は、利用者が自宅にいるような日々を過ごせることを目指し、一人ひとりの思いに添った支援に努めている。また、日々のケアの中で理念を振り返りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事、喫茶店、散歩、理髪など地域と交わりながら過ごしている	近所の方に将棋の相手やお茶をたてに来てもらっている。お正月に神社に集まったり、左義長に参加したりして地域の人たちと交流している。また、地域の一員として溝掃除や広場の草取りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症状にたいする接し方の相談や介護保険の相談などにアドバイスすることがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の連絡など取り入れていることがある	住民の参加が得られ易いように地域行事と合わせた開催となっている。会議では、事業所の報告や要望などしている。利用者代表や区長の他、住民約20名が参加されたこともあるが、行政からの参加がない。	行政の参加が得られるようさらに働きかけ、行政も参加する会議で多くの意見を得てサービスに活かす取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	できる範囲で行っている	役場や地域包括支援センターとは連絡を取り合っている。入居の紹介を依頼したり、介護認定審査委員の依頼を受けたりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や庭に自由に上履きのまま外出できるよう配慮している。やむを得ず拘束をする場合は家族の同意を得ている	身体拘束の弊害を話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関や庭へは施錠もなく、自由に出られる。また、管理者は、虐待防止の一つとして、職員がストレスをため込まないように気配りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから言葉使いに注意し、入居者が受動的にならないよう心掛けることにより虐待につながらないように配慮している		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度など必要があれば利用できる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わし、誤解のないよう説明している。契約書の内容だけに頼らず常に家族とコミュニケーションをとっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望はいつでも受け入れられる態勢にある。第三者評価も活用している	家族の訪問が多く、日頃から家族と話す機会を作り信頼関係を築くことで、利用者・家族から気軽に意見や要望が伝えられている。管理者は、意見や要望を会議で取り上げ運営に活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を設けそれ以外にもそのつど受け入れている	管理者は、月に一度の全員が参加する会議の他、いつでも意見を聞く姿勢を打ち出している。要望や提案など言いやすい関係を築き、仕事がし易いよう物品の購入にも職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	海外慰安旅行も年に一度行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ外部研修・月に一度会議で社内研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協会に加盟し、情報を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の嗜好・性格・生活環境など家族から聞き、介護に反映させている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の仕事・家庭・健康面に配慮しサポートしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療・歯科・リハビリなど利用できるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみ・テーブル拭きなど手伝ってもらえるような環境を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	場合によってはこちらから入居者を家族へ面会できるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店・利用・買い物など	利用者・家族の希望から、自宅の仏壇参りや親戚への訪問、家族の行事、葬儀の参列等の支援をしている。また、馴染みのスーパーでの買い物や喫茶店等にも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の行動や言動を把握し、お互いが良い関係がきずけるようサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先から次の施設を探すときなど相談に乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ個々に対応した個別の要望に対応している。(個別の外出)	日頃の暮らしの中から、利用者それぞれの意向を汲み取っていけるよう、職員は常に、利用者の気持ちに寄り添っている。また、家族からの情報も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から職員が聞いた情報を全員で把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なサービスにならないよう一人一人に合った対応をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思、身体的変化、精神的変化などを注視し常に新しい介護計画に反映している	毎日の申し送りと記録から、職員は日々の変化を共有している。毎月の会議で評価を行い、利用者・家族の意見を反映しながらケアプランを作成している。また、協力医の訪問診療時の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化を誰かが見つけた時は朝夕のミーティングの時に実践するような体制をとっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療や外出等、その時に応じて柔軟に対応している		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店・買い物・散歩・選挙など地域資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる範囲で行っている	利用者・家族納得の上、協力医に変更している。専門医の受診は、家族や職員が同行し緊急時は、職員が付き添っている。診療内容を協力医・家族・職員が互いに報告し合っ、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度往診があり、その時に行っている、急を要する場合はその都度行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に交代で病室をのぞき、早期退院にむけ病院と意見交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者それぞれの状況に応じ家族と話す機会を設けている	契約時に事業所の方針を説明し、利用者の状態に応じてその都度家族と話し合っている。協力医の訪問診療に合わせて、医師を交え相談しながら事業所の出来る限りの支援をしている。また、全職員が救命救急の講習を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年に2回行っている	利用者と共に夜間想定も含めた防災訓練を行っている。管理者は、消防署に災害に対する相談に出向いたり、自治会の総会などで協力を依頼したり地域との協力関係を築く取り組みをしている。3日分の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に丁寧な言葉で話すよう心掛けている	言葉かけや対応は、指示的にならないようにして、気になる時は、その場で注意し合っている。排泄や入浴介助時は、利用者の誇りを損ねないよう努めている。しかし、希望者のみ居室カメラを使用している。	希望者に限定しているとは言え、やはり、個人の尊厳とプライバシー確保の観点からは、カメラ使用について全職員で再度話し合っ欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えや入浴など本人の意思が出せるように尋ねている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	教養はせずできるだけ本人の意思を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を染めたり、理容のサポートをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いでメニューを変えている、朝食はパンかご飯を選択できる	下ごしらえや下膳など、利用者の出来ることを一緒にすることもある。毎日買い物に行き、利用者の好みを取り入れ調理している。ミキサー食の人には、一品ずつ説明して食べる楽しみがもてるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量、排尿の記録をし、摂取不足がないよう心掛けている。夜は個別にお茶を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後自分でできない方は介助し、必要な方は定期的に歯科の口腔ケアを受けている		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄ができるようオムツ着用の方も複数で介助し、便器に座ってもらえるよう心掛けている	利用者一人ひとりの排泄習慣や様子から夜間も含めトイレ誘導している。また、重度になってオムツ使用の人も日中は、複数の介助でトイレでの排泄に努め、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質を多く含んだ食材や牛乳などで便秘対策をとっているが医師と相談し便秘薬を処方してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に声をかけ希望を聞きながら行っている	希望があればいつでも入浴できる。順番・湯加減など個々の希望を聞いている。重度の人も複数介助により入浴している。入浴を好まない人には、時間をずらしたり、話しをして誘い方を変えたりして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度調節やオムツ交換トイレ介助の時間などできるだけ安眠してもらうよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を個別に管理し、飲み忘れのないようチェックしている。くすりの効果を注視し医師と相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・将棋・歌・家庭への訪問など個別に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人のレベルにあった外出をしている、可能な方は1泊で旅行もする	居間から敷地内の庭に自由に出られ外気浴が出来る。近所への散歩には、車椅子の人も順番に行っている。買い物に行った時、喫茶店に寄ったり、季節毎に花見に公園に出かけたりしている。また、利用者の希望で一泊旅行に出かける支援もしている。	

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時など財布を自分で管理してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときはサポートしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度等)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井を高くし、匂いがこもらないよう配慮し、窓はペアガラスを使用し、室温が快適に過ごせるようにしてある。照明は調光機能付きで安眠できる明るさの設定ができる	「自宅と同じようにしたい」との管理者の思いから、共有空間の飾りや掲示物を簡素にして家庭的な雰囲気づくりに配慮している。近所の方と一緒に植えた花や切り花を飾って、季節感を採り入れ楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子をできるだけいろんな場所に配置し座ってもらえるようにしてある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物を自由に居室に持ち込むことができる	本人が安心して過ごせるよう馴染みの物を持参されるようお願いしている。テレビ・化粧品・椅子・写真、お稽古道具など使い慣れた物を置き、得意な作品を飾り居心地よい居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に移動できるようバリアフリー、手すりを配置してある		